隠れ肥満・持病の人は「自分の身を守れるか」　東京都・コロナ「全数把握」見直し決定で心配されるコト

2022/9/14FNN プライムオンライン

対象は高齢者、入院、投薬、妊婦

「都は今後これらの取り組みによりまして、新たなステージへと歩みを進めてまいります」　新型コロナウイルス感染者の全数把握について、小池知事は、今月 26 日からの国の一律見直しをうけ、東京都も見直すことを決めた。

コロナ対策本部会議に出席する小池知事（13日 都庁）

【画像】東京都も 26 日から「全数把握」を見直す。小池知事は・・・。

見直し後でも、医師がこれまでどおり発生届を出すのは(1)65 歳以上(2)重症化しているなどすぐ入院が必要な人、基礎疾患があり今後入院する可能性がある人(3)肥満など重症化リスクがあり治療薬の投与が必要な人（4)妊婦、となっている。

発熱外来や検査キットで「陽性」と分かったけれど、(1)～(4)にあてはまらない人は「陽性者登録センター」に自ら登録。登録すれば、健康観察、配食サービス（条件付き)、パルスオキシメーター貸与、宿泊療養、医療相談、入院・往診などの緊急時対応などを受けられる。しかし、登録するかしないかは本人次第。登録する人を増やせるかの環境整備は、見直しとなる 26 日までの課題だ。

フラグ立てられる?

「いかにフラグを立てられるか」　東京都は、今後、医師が発生届を出すのが全体の 2 割、自ら登録センターに届け出る人が 8 割になると見ている。その 8 割の人のなかで「急変した人」について、どう的確なタイミングで医療につなげていくのか、これも 26 日までに、”詰め”なくてはならない課題のひとつだ。

「我慢強い人が重症化するケースは出てくると思う」一方でこのような懸念もあり、体調が悪化してきた場合、どのタイミングで再診を受けるよう促すことができるのか、これも課題だろう。

一方、ある関係者は、「隠れ持病、肥満、ワクチン打ってない。若い人の急変は、この 3

つのどれかが多い」　と話していたが、「全数把握」を見直して、若い人の急変を把握できるかどうか、心配する声は多い。また、“隠れ疾患”は若い人ほど気づかない傾向にあり「これまで通り、すべて医師が管理した方がいいのではないか」との指摘もある。

BMI25 以上は「肥満」

ある感染者の 60 代男性は、高血圧であることから宿泊療養施設に入所。すると、身長と体重を自ら測定するよう言われ、その数値をもとに肥満度を表す体格指数=BMI を確認されたという。男性の数値「26」だった。

ところが、施設の職員から、「重症化のリスクがあるので、血中酸素飽和度が 94 を切るようなことがあったら中和抗体薬を投与します」　と言われたそうだ。さらには、「BMI25 以上は「肥満」で重症化リスクがあるため、血中酸素飽和度の数値次第で、中和抗体薬を投与する」と説明を受けたという。この男性は、一般的に肥満には見えず本人も驚いていたが、「肥満」は、それだけ重症化リスクが高いと言うことだろう。

不同意のわけは「ど正論」

当初、小池知事は、「国の全数把握見直し」に同意しなかった。その理由について、別の関係者は、「医療機関がひっ迫しているから止める、という、なし崩し的な止め方ではなく、なぜ止めるのか、誰を発生届で把握するのか、しっかり議論して結論を出してから止めるべきだ、と思っていたからだ」と説明した。その上で、東京都の対応について、「東京は、ど正論だった」　と評価した。

では、なぜ、小池知事は、この段階になって、「全数把握見直し」に舵を切ったのか。その根拠は、「発生届」対象外の人に健康観察を提供できるメドが経った他、コロナ治療の飲み薬の一般流通が始まるからだという。

「これまでよりさらに自分の身は自分で守る、ということだ」　このような見方をする関係者は多いが、26 日の見直しにむけて残された課題も多い。　自分の身を自分で守るためには、感染予防対策を緩めず、感染したら行政や医療機関から“見逃される”ことがないよう自ら登録、まずはこの 2 つが大切だろう。

（フジテレビ社会部・都庁担当　小川美那）